

初等部1年 畑の発表会 「かぶ」

鶴尾 基子

1年生は毎年、1学期に二十日大根と朝顔、2学期にかぶを育てている。今回の「畑の発表会 土と育つ子どもたち」では、2学期に育てた「かぶ」について取り上げた。種を蒔き、当番が観察記録をつけ続けた。組中で毎日畑に足を運び気づいたこと、発見したことを皆で共有してきた。観察と同時に作詩を行い、子どもたちから出てきたことばをつなぎ合わせ「1年生のかぶ」という詩が出来上がった。発表会の最後に、その詩を皆で群読し、メロディーをつけ、歌を披露した。また1学期、国語の単元で学習したロシア民話「おおきなかぶ」のお話の台本作りを行いかぶの畑の前で劇を行った。当日は展示ブースにおいて、その劇のビデオの映像を流した。



I. はじめに

1年生は、生きものが好きな人たちが多く組である。1学期からたくさんの動、植物に触れて過ごしてきた。また友だちの話したことを受け入れ、よく聞き合える、話し合いの上手な組でもある。かぶを育てることを通して、さらに自然に親しむ気持ちを養い、子どもたちが多くのことを共有する中で、心を耕すことを目標に取り組んだ。

私自身は、4月に学園教師で農業指導をしている辻村透先生による「42年間の学びの伝承」のお話を伺ったこと、夏休みに学校法人シュタイナー学園の「農から考える子どもの教育」の発表に出席したこと、9月に学校法人きのくに子どもの村学園 南アルプス子どもの村小学校視察に行ったことなどの研修に参加したことが、この発表に望む上で大きな助けとなった。

II. 報告会までの学習・準備

1. 「かぶ」を育てての学び

(1) 畑の看板作り

種まきをした後、児童から、かぶが大きくなるように、「お守りの旗を作りたい」「詩を読んで聞かせてあげたい。毎日話しかけてあげたい」「歌を作って歌ってあげたい」という意見が出た。種まきの翌日、畑の看板作りを行った。

(2) 観察・スケッチ

観察、スケッチを行った。種、子葉、本葉（本葉1枚）、本葉（本葉4～6枚）収穫後（本葉12～13枚）

(3) 作詩

1学期から行事や特別なことがあった時、自分の気持ちをことばにして表現し作詩を行ってきた。今回、種まき、発芽、間引き菜の試食後、本葉を数えた時、収穫時などに作詩を行った。子どもたちのことばをつなぎ合わせ、詩「1年生のかぶ」を教師がまとめた。

(4) メロディ作り

音楽教師に協力してもらい、詩「1年生のかぶ」にメロディをつけて歌を完成させた。

(5) 葉数え・気づいたこと

発芽後、子葉、本葉と葉の枚数が増えていくので、葉の数を数えることを行った。また気づいたことや疑問を組で共有した。

9月：14日種まき・16日発芽（ハートの形）・19日子葉（種のからがついていた）・25日本葉2枚目（ぎざぎざの形）・27日本葉3枚目

10月：2日本葉4枚目（葉の間から本葉が出

る)・4日本葉5枚目・6日本葉6枚目(2日経つと出る)・10日本葉7枚目(本葉5枚目からかぶが膨らむ)・11日本葉8枚目(子葉がとれている)・12日(土から白いところが出ていた)(子葉は枯れてとれた)・16日本葉9枚目・17日(なかなか10枚目が出ない)・(寒い日が続いているからか)・(雨が続けているからか)・24日本葉10枚目・(葉が虫に食われている)・26日(黒い虫発見)・30日(葉にとげ)・31日(白いところが大きく膨らんだ)

11月:6日本葉11枚目(畑の下にモグラ)(1枚目の本葉が枯れてとれそう)・9日本葉12枚目・(1枚目の本葉とれた)・11日本葉13枚目・14日収穫

(6) 草丈を測る・かぶの数を数える

数学の勉強の「どちらがながい」と「おおきいかず」の単元と並行して行う。かぶの草丈を紙テープを使って測り成長していく様子をグラフに表した。また収穫したかぶの数を10のまとまりにして数え大きな数の学習を行った。

(7) 観察カード

種まきをした翌日から当番児童が毎日の畑とかぶの様子を観察カードに記録した。スケッチと気づいたことを言葉にし、朝の会の時に畑とかぶの様子はどうだったかを報告した。

(8) 音読

1学期から詩に触れてきたが、おさらいに音読カードを取り入れた。教科書の単元のほかに、詩を読んだ。3つの観点(①はっきりした声で②口をしっかりあける③丁度よい速さで)に気をつけ、保護者の方にも聞いてもらうようにした。

(9) かぶの絵本の読み聞かせ

自由学園図書館司書の方がかぶに関係する絵本を用意してくださったので、読み聞かせを行った。
・おおきなかぶ・みどりのはしご・ごちそうラディッシュ・かぶさんとんだ・しんせつなともだち・おじいちゃんのカブづくり

2. 「おおきなかぶ」のお話の劇活動

(1) 文の読み取り

1学期、登場人物の相互関係や心情、場面について描写をとらえ、読み取っていった。一人ひとりがプリントに書き込みまとめた。

(2) 台本作り

劇の台本作りを行う。場面ごとに丁寧書きをし、その場面にあった挿絵と表紙を描き完成させた。

(3) 道具作り・歌係、ポスター作り

かぶ、小道具作りは有志で行う。エンディングの曲は音楽教師に助言をもらい、「おおきい木」を選曲した。木の部分をかぶにかえて歌った。劇の宣伝用ポスターやちらしの案が児童から出たこともあり、美術教師の協力のもと、劇のポスターの顔の絵と字は子どもに書いてもらった。

(4) 劇練習

6人の登場人物を8人で配役した。子どもたちの意見でオーディションによって役を決めた。地の文も自分の好きなところを選び、希望者が多いところは多数決で決めた。

3. 展示ブースの用意

毎日の観察記録・1学期に育てた二十日大根・朝顔スケッチ・かぶの成長の表・気づいたこと、スケッチ・詩・美術のかぶの絵の展示

コナラ・シリブカガシ・朝顔の種の配布、収穫体験の準備を児童が行う。



III. 発表会の内容

1. ステージ発表

22日1回ステージ発表、23日に2回ステージ発表を全員で行う。

かぶの種を蒔き、収穫するまでの様子について発表した。ステージ中央に、かぶの成長の様子を描いた絵を配置した。それ以外に、説明に必要なもの(観察カード・畑の看板・草丈の紙テープのグラフ・劇の台本・スケッチ)を見せた。

葉が1枚ずつ増えていくことや、間引いて抜いたかぶの葉の枚数によって膨らんでいるものといないものがあること、子葉がなくなること、土から白

い部分(胚軸)が浮き上がってくる様子、本葉が増えなかった原因、数学の勉強として草丈を測ること・収穫したかぶの数を数えること、そして、成長する様子を詩や歌にして発表した。以下に、1年生が創り歌った「1年生のかぶ」の詩を記す。

「1年生のかぶ」

ちいさい ちいさい かぶのたね かぶのたね
かたいたね くろいたね まんまるたね
たね たね なくしそうなくらい ちっちゃいよ
くさぼうぼうだった一ねんせいのはたけ 一ねん
せいのはたけ
六ねんせいがかさをぬいてくれた
六ねんせいがかふかの土をつくってくれた
め・め・めがでたよ めがでたよ
三日目にめがでたよ によこ によこでたよ
みどりのみどりの小さいめ 土の中から かおだ
した
ハートのはっぱ ぎざぎざはっぱ二まい、三まい
きゅうくつだから まびきをしたよ
かぶのはっぱをみんなでたべた
たべたらツーン たべたらツーン
おいしいね からいけど
みんなで かぞえた ぎざぎざはっぱ
いっぱいでしたよ ぎざぎざはっぱ
一まい 二まい 三まい 四まい
五まいでかぶはぶくつとふくらむ 五まいでかぶ
はぶくつとふくらむ
たくさん ふえたぎざぎざはっぱ
おおきくなった ぎざぎざはっぱ
かぶ かぶ たくさんとれた
うれしいな うれしいな
ちいさいたねが おおきなかぶに
土はやさしい おかあさん
土はやさしい おかあさん

IV. 報告会を終えて

(児童の日記より抜粋)

「きょうは、一年生みんなゆっくり、大きなこえで
いっていてもとっても上手にできていたのでよかつ
たです。じぶんでもきょうがーばんきんちょうした
けれどいつもよりとってもうまくできたのでうれ
しいです。あとおきやくさんにも大じにそだててき
たかぶが、たくさんとれてうれしかったとつたわっ

たみたいだからうれしいです。」

何度も練習をして本番を迎えた。練習の時はけん
かをしてしまったり、ふざけてしまうこともあった
が、練習を積み重ねるごとにどんどんよくなってい
った。大切に育ててきた世界一のかぶのことをしっ
かり伝えたいという気持ちで、当日は自信をもって
発表することができたと思う。



V. 終わりに

辻村透先生のお話の中で、農業は子どもの心の中
に「命ある生きものを慈しむ」心を育てることだと
語られたことが心に強く残っている。1年生の子ど
もたちと毎日見てきた畑から、そして大切に育てて
きたかぶから、私自身がたくさんのことを教えても
らった。畑の土に向かって、かぶに向かって話しか
ける1年生の純粋な様子を見ながら、子どもたちと
とってかぶを育てながら、かぶという作物以上のもの
を感じているような気がしてならなかった。先日
畑の「御礼肥え」をみんなで行った。「かぶを大き
くしてくれてありがとう」「いい土になあれ」と言
いながら一生懸命、移植ごてで堆肥を混ぜる1年生
の様子を見ながら、確かに子どもたちの心が耕され、
自然を慈しむ気持ちが育っていることを心より嬉
しく思った。この学びをこの1年生とともにできた
ことに感謝している。

VI. 参考文献

- 『花と野菜の育てかた ニンジン・カブ・ショウガ』
監修日本農業教育学会 ポプラ社
- 『たのしい野菜づくり育てて食べよう ダイコン
やニンジン』林義人 小峰書店
- 『こども野菜塾』柿沢安那 明治書院